



## 死後変化で起こしやすい現象、現場の声を聞いて…

復元納棺師 笹原 留似子



私のネットワークは、葬儀社、納棺業、湯濯業、エンパーミング業、寺社仏閣など葬送の世界に携わる専門家、法医学、ホスピスや緩和ケアなどの全国各地の多くの医師や看護師に死後処置の方法としてセミナーを中心に約20年アドバイスしてきました。

### 死後変化からご遺族の悲嘆を軽減させる死後処置の研究

セミナーを受講していただいた皆様は、故人と呼ばれる亡くなった方の体が起こす死後変化で、残された人たちが更なる悲嘆を抱えないよう、どのように遺体を守ることが出来るか、ご遺族の悲嘆の援助を目的として死後処置の研究と実践を本来の活動に加え、時代に合わせて現場を作っていく先駆者の方々が年々増えています。最近の研究協力は、北は北海道、南は沖縄県まで緩和ケア医や救命医、大学病院法医学チームが地域の連携の中で、残された家族のために故人(遺体)の死後処置をしっかり行っていくためにどのようなチームを作り、どのような死後処置を行うべきかという活動に協力をさせていただくことがとても増えています。

### 遺体処置に過剰なサービスを行い高額請求をする業者も存在する

どの業界でもあることですが、葬送の世界でも「遺体は腐る」「こんなに死後に変化をしてひどい状態になっている。かわいそうに。」などと遺族の不安な心理を煽り、売上のために遺体処置に過剰なサービスを行い高額請求をすることで消費者センターには多くの相談が寄せられ、近年社会問題として取り上げられることも増えています。これは残念なことですが、そういう業者は一握りで、実際は真面目に真摯に向き合っている地域の葬儀業者が多いのも事実です。

### 病院での死後処置が行われていない場合の死後変化は著しい

病院の死後処置が、遺族に寄り添う形で正しく行われていることで、その後の大きな変化を抑えられることは事実です。病院での死後処置が行われていない場合の死後変化は著しく、残された家族もその変化を目の当たりにすると、自責や他責の念に襲われるので、家族葬も増えた中で時代と共に、死後処置は家族が納め得る形で行った方が良い時代に入っていると思います。今年も死の臨床と法医学・病理学学術大会など、私も医療や法医学の分野でお手伝いすることが増えています。遺体に関わる専門職の皆様に向けて、(株)ヒュー・メックスのブースに立ち質問にお答えすることも増えました。最近、肛門から便が出て止まらないという看取り直後の問題も発生することが増えているとのこと、加えて鼻と口からの出血、漏液死臭にはセーフティセットプラス。切創、擦過傷、裂創、挫創、腫瘍、オビ後の傷などにはセーフティバンデージ、対面時の家族の悲嘆を和らげるためにメモリーシオンを説明し、多くの現場でご活用いただいています。

### 遺体から生体への感染の連鎖

最近、コロナ感染だけでなく多くの感染症が増えた時代に入りました。遺体から生体に感染の連鎖が起こります。しかし、正しい死後処置が行われていれば、その連鎖は回避できます。感染対策の目的として使用されることがとても増えたのがセーフティセットプラス、セーフティバンデージです。法医学・病理学の医師の皆様から、救命や緩和医療、消化器系の医師の皆様からの質問も多く、チームや遺族を感染から守るために使用したいと声を掛けていただき、使用方法などそれぞれの特殊な現場に合わせて説明することが増えました。(株)ヒュー・メックスのブースに立ち、来訪者の皆様から現場の苦勞を教してもらいながら、色々なアイデアと企画力で時代は進化していることを感じています。



法医学・病理学学術大会のお手伝いと、(株)ヒュー・メックスのブースのお手伝いを併用して医師の皆様への質問に答えながら記録し、この原稿を書いています。皆様の参考になれば幸いです。

## 大往生

大好きなおじいちゃんを亡くした、7歳女の子のお孫さんのお話です。私は参加型納棺を行う納棺師ですから、ご遺族との会話がメインになります。参加型納棺は、ご遺族を参加させれば良いという、ただそれだけの簡単な概念の納棺ではありません。残された家族にとって様々に納得して不安を安心に変えてから、出来るだけ心を尽くして出て来た。ことを目指す納棺です。

それは秋の始まりの霧雨が降る、少し肌寒い日でした。その日も現場が忙しく、処置バッグとメイクボックスに前の現場で使用して足りなくなった備品を補充して、その日の最後の現場に向かいました。

ご遺体が安置されているお部屋には、入りきれないくらい大勢の弔問者が入れ替わり訪れていました。家族葬がメインの時代に入っても、弔問者の人数は多いことがあります。

ご家族に私が納棺のために到着したことで、納棺を進めるご挨拶をして、ご遺体の処置に入りました。大切な人が棺に入る覚悟は、誰にとっても必要な心理ですので説明は必須です。



死臭と漏液、髭が伸びていることを気にしていた喪主(長男)様の希望を伺っていたので、セーフティセットプラスからの処置をスタートさせました。処置後には必ず喪主様に希望に添っているか、故人の表情と追加の希望はないかの確認をします。この時、可愛らしい女の子が、喪主をつとめるお父さんと一緒に、故人が安置されているお部屋に入ってきました。

その子が、突然言いました。「『だいたいおじいちゃん』って、なんのこと?」不安気なその表情には、受け入れ難い、不愉快な気持ちを抱えているであろう雰囲気を感じられました。このような場合は、小さな子どもでも自分の意見を持っているものです。何か私に伝えたいことがあるのだらうと思ひ、普段はそのまま質問に答えますが、この時は「何かあったの?」と、声を掛けました。

「大人の人がみんな、『だいたいおじいちゃん』でよかったね」と言うの。おじいちゃんが死んじゃったのに、良いことなんてないのに。」その子の目から、ポロポロと涙が落ちました。

「大往生」は、基本的に故人(亡くなった人)の家族しか使えない言葉で、ご遺族の立場として一方通行で弔問客に使用する言葉としての定義ですが、現代ではなぜか弔問客がご遺族に対して使ひ、遺族の悲嘆を深くしているのをよく見ます。恐らく弔問客の誰かが、この子の前で使っていたのでしょう。

私も答えました。「おじいちゃんのこと大好きな人たちが、お父さんたちに何とか元気になってもらおうと思っただけで、一生懸命使った言葉なのかな。でも、本当はおじいちゃんずっと一緒に居たかった気持ちを知って欲しかったんだもんね。」女の子は、自分の服の袖で、涙を一生懸命拭いていました。

少し落ちて着いてから、おじいちゃんの髪の毛をとかしてもらいました。「いつもお頭を撫でてもらっていたから」と、お孫さんは最後におじいちゃんの頭を撫でていました。「頬に触っても良いよ。」と、私が声を掛けると「いつも、こうしてくれていたんだよ。」と言って、お孫さんはおじいちゃんの頬に、両手で触れていました。「いつも」という言葉が出てきたとき、自分のベースを取り戻すことが出来たことになりました。その証拠に、どんなに小さな子どもでも、亡き大切な人のお世話を始めます。枕の位置を直したり、お布団を掛けてくれたり、耳元で話し掛けたり歌を唄ってくれたり、手にクリームを塗ってくれることもあります。そこで初めて、「本人の体を守ってくれる箱」という説明をして、生まれて初めて見るであろう「棺」を持って

くることが出来ます。納棺の時間は長くて、1時間以内と限られており、その中でそれぞれの、一人一人に合わせた心理に寄り添う形で参加型納棺を進めていきます。お孫さんは、おじいちゃんの棺にメッセージカードを入れてくれました。「おじいちゃん、これからもうずっと、大好きだよ。」

お孫さんの言葉が「だいたいだいた。」という過去形から、「だいたいだいたよ。」と、現在進行形になっていました。悲しみの中には、大切な想い出もたくさんあるものです。作業の中で悲しみの中にある辛さを取り除いた後に残る大切な想い出。悲しみと共に生きることは、その大切な想い出という大きなお守りをもたらしたのと同じことなのかもしれせん。

故人のお体がある、家族にとって限られた大切な時間の中で出来ることを探す毎日です。

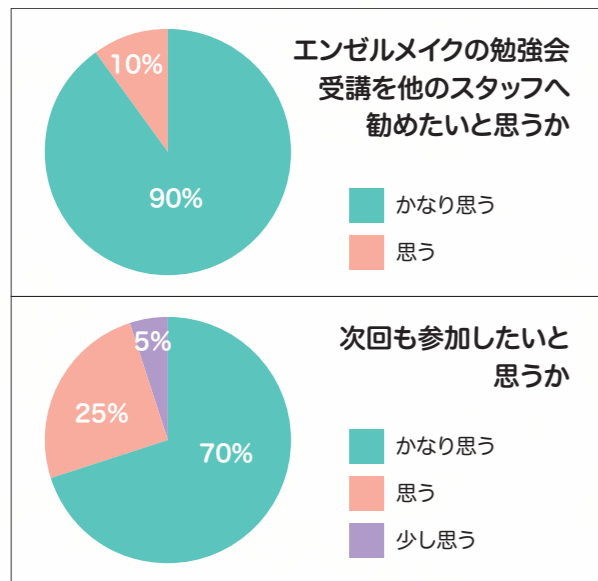


# 社団医療法人 養生会 かしま病院での エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会

2024年 2月15日(木)開催



エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会アンケート



## エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会後にたくさんのご感想をいただきました。

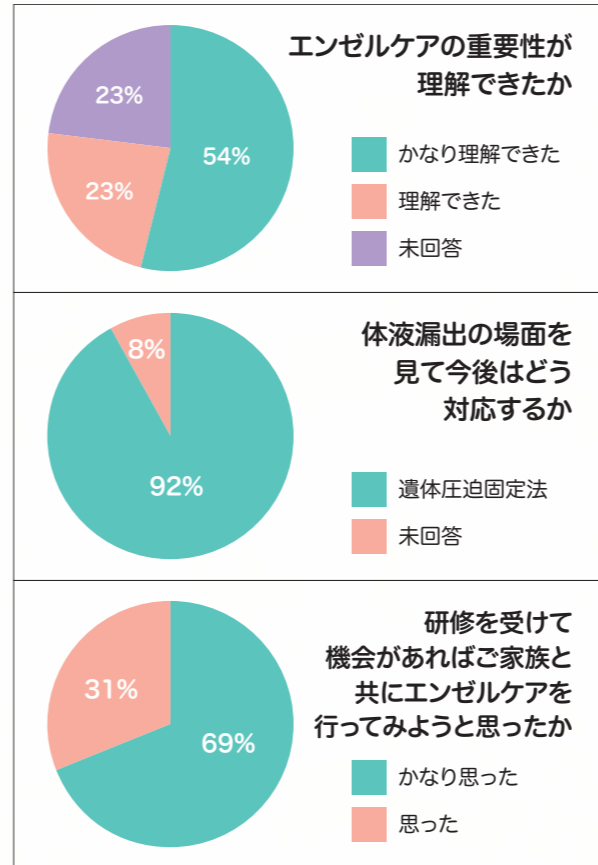
参加人数【1部13名/2部9名/合計22名】アンケート回収20名

- 今までのエンゼルメイクは男性も女性も同じようにメイクしていましたが、今回の勉強会でそれぞれのポイントを学ばせていただいたので、実践に活かしたいと思いました。
- 実際にマネキンにメイクをしながらの学びでしたので、イメージしやすい、メイクの仕方も丁寧に教えて頂けたので楽しい勉強会でした。
- とても参考になりました。業務の一部ではなく、ご家族が見慣れた姿に整えられるような実践力がこの勉強会を通して身につくと思いました。
- 今までは自己流で行っていましたが、勉強会を受けて、今後しっかりエンゼルケアをしていこうと思いました。病院から退院したあとの体液の漏出の場面を具体的にお話ししていただき理解しやすかった。今後のケアに繋げていきたい。
- 死後の変化を知ること、今まで以上にエンゼルケアの大切さを実感しました。看護師として適切な処置を行い、ご家族と一緒に参加できるエンゼルケアの時間を作っていききたいと思いました。
- 今まで、メイクキットを上手に使用できていなかったのですが、使用方法を学ぶことが出来て良かったです。ケアの方法をゆっくり学べ、実際にマネキンを使用しメイクすることで、メイク前と後の変化が分かりやすかった。血色を補うポイント（耳たぶやまぶたなど）も教えて頂き、温かみのある表情へ変化したところも実際に見ることで、とても勉強になりました。

2025年 2月13日(木)開催



エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会アンケート



エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会の様子はヒュー・メックスのホームページにて随時更新しています。▶<https://www.hum.co.jp/>



## エンゼルケア・エンゼルメイク勉強会後にたくさんのご感想をいただきました。

参加人数【15名】アンケート回収13名

- 元々、エンゼルケアに興味があったが、『感染防止の視点』では考えたことが全くなかったため、驚きました。木村先生のお話を聞いて、一つ一つ『なるほど・確かに...』と納得しました。体液漏出については写真を見て衝撃でした。自分の家族だったらと思うと、本当に悲しいです。私たち看護師は、とても重要なケアをさせて頂いていると感じました。
- 亡くなられた患者さんの今の状態だけでなく、これから起こることを考えてケアすることが大切だと学びました。
- 今回の研修で正しい技術を身につけたので、今後はご家族と共にエンゼルケアを行っていききたい。
- ご家族と共にエンゼルケアを行うことで、家族看護の視点から、グリーフケアの一環として行っていききたい。
- エンゼルケアの時間は亡くなられたご家族にしてあげられる最後のケアなので、少しでも受け入れに繋がるのなら、ご家族と共にエンゼルケアを行っていききたい。
- 今まではエンゼルメイクの使い方の勉強を受けたことがなく、自己流になっていたが、正しい使用方法について学ぶことができた。



## 勉強会を終えてお話を伺いました!!

**Q** 2023年から毎年勉強会にお邪魔させていただいておりますが、スタッフ様の意識や技術にどのような変化がありましたか?

**A** エンゼルメイク研修会を開催する前と今を比べて、断然、スタッフがご家族と共にエンゼルケアを行う姿が増えました。その背景にあるものは、スタッフが技術に自信を持ったこと、エンゼルケアが残されるご家族のグリーフケアの一つになっているということが再確認されたことだと思っています。それ以前に、ヒュー・メックスさんのメイクキットそのものが看護師・ケアする側の心地よさを支えてくださっているのが一番の要因ではないかと思えます。ケアする側の環境を整えれば、ケアも変わる!!ですね!

(緩和ケア認定看護師 岡田 聡子様より)

## メモリーションが新しくなりました

ご遺体用メイク製品  
**Memory Sion**  
メモリーション

メモリーションは、その人らしい表情に整えるご遺体用メイク製品です。

変化していく肌の状態、顔色を整え少しでも穏やかで温かい表情に保ちお別れできるように、エンゼルメイクに必要な物を一つにまとめております。



カバーの裏側は故人へのメッセージカードになっています



パッケージに切り離して使えるスパチュラが付いています

全国 **1,094** 病院また、施設で使用されています ※2024年度実績

## メモリーション5つの特長

- 1. 衛生的** 使いまわす必要がなく、一人に1セットご使用いただけます。
- 2. コンパクト** エンゼルメイクに必要な物が一つにまとまったセットです。
- 3. 色調整が可能** 色を混ぜ合わせることでお肌に合わせた様々な色を表現することができます。
- 4. あざや傷を隠す** あざや傷が目立たなくすることができます。
- 5. ご遺体用** ご遺体の肌を想定し油分を多く含んだメイクセットです。

ヒュー・メックスでは、自社製品の取扱いに関する説明会を随時行っております。詳しくはご相談ください。